

東京 IPO 特別コラム

2018年4月24日 Vol.121

極端に二極化する2018年2-4月のIPO市場

4月20日にマザーズ上場のHEROZ（ヒーローズ・4382）は初日に買い物が殺到（売り1.8万株に対して買い物が120万株）して寄りず、10350円買い気配（公開価格4500円）で終わりましたが、2日目になっても34万株の買い物で、23810円（公開価格の5.3倍、時価総額794億円）の買い気配で寄り付かず、初値形成は3日目に持ち越されてしまいました。これは投資家の関心が短期に人気化が予想される銘柄に集中していることの表われかと思われ、つまり、AI活用のインターネットサービスを展開する同社への成長期待と人気の高さが株高の背景かと思われ、公開株が少ないのも好需給を狙った買いが入りやすい背景になっています。

既に2018年のIPO銘柄は21銘柄に上っていますが、概ね堅調な初値形成ながら、市場人気は極端に二極化しているように感じられます。

初値に対してその後の高値がどこまでいくかは短期売買で鞘取りを狙う投資家の関心事かと思われ、直近ではMマート（4380）が初値5380円に対してその直後の高値まで29.5%上昇。同様にジェイテックコーポレーション（3446）も9700円初値に対して39%の上昇を見ました。このほかブランド品買取りのSOU（9270）が初値4100円から一旦は公開価格の3300円に近い水準まで売られましたが、2週間後には83.9%の上昇を見せました。更に、公開価格3570円に対して丁度4倍で初値がついたRPAホールディングス（6572）はその後の高値まで40%近い上昇を見せるなど初値で投資して短期に成果を上げる可能性が市場には存在していますのでIPO銘柄への関心が高まるのは止むを得ないところです。

一方では公開初値から時価を比べると、2月から4月11日までの直近のIPO銘柄20のうち12銘柄が初値を割った状態となっており、2銘柄に至っては公開価格も下回っているという実態があります。ですから当たり外れの大きなIPO銘柄で儲けるのも一苦労といったところかと思えます。何も企業の実態が分かりにくいIPO銘柄にリターンを求めなくても、既存の銘柄で成長指向が示されている銘柄でまだ評価が不足している銘柄にじっくりと投資しても良さそうです。IPO銘柄への投資はその内容を十分に吟味してからでも遅くはないと思われ、とは言えホットな値動きを見せるIPO銘柄への関心は今後も高まるものと考えられます。

本日以降、HEROZが初値をどうつけるのかへの関心が高いのかと思われ、25日からのIPOはベストワンドットコム（6577・マザーズ）、アイペット損害保険（7323・マザーズ）、エヌリンクス（6578・JQ）と続き、5月は例年、IPO銘柄が出て参りませんので、基本的にはお休み期間となります。この間は業績動向を確認しながら既存のIPO銘柄のリバウンド狙いなど作戦を考えていく必要があります。四半期決算の推移で進捗率の高かった銘柄などをチェックしながらIPO銘柄への取り組みに努めて頂くと良いかと思えます。

東京 IPO 特別コラム

【四半期経常利益の進捗が高い初値割れ銘柄】

①神戸天然物化学（6568・マザーズ）公開日 3月15日

4月23日終値 3550円 時価総額 274億円

公開価格 2340円 初値 3665円 安値 3120円（3月23日）

バイオ関連、有機化合物の受託開発を行い、製品量産化のために2年間で44億円の投資を計画。4月6日の高値4830円から4月17日の安値3650円まで24.4%の調整を見せ現在も3550円と安値圏で下値模索中。3Qの経常利益は1,085百万円で進捗率は107.4%と高い。4Qには上場費用等の発生が見込まれる営業赤字になるためとしていますが、5月14日の決算発表が注目されます。

②信和（3447・東証2部）公開日 3月20日

4月23日終値 1096円 時価総額 151億円

公開価格 1150円 初値 1106円 安値 1040円（3月30日）

物流機器、建設仮設材などの金属製品を製造販売。地味な業態のため上場後も不人気。VCの保有株（発行済み株式数の90%を占めていた）の放出後で株価は頭重い展開だが、配当性向40%を掲げ、配当金43円を前提にした配当利回りは4%近い水準となっていますので下値は堅いと見られます。高値1192円と安値1040円のボックス圏での展開が続いていますが、3Qまでの進捗率は79.7%で通期業績の下方修正の不安は小さいと見られます。問題は5月15日に発表予定の今期の見通しで前期の減益から増益に転じることができれば見直しの動きになると期待されます。

（東京 IPO コラムニスト 松尾範久）